



# 諏訪湖クラブニュース NO. 8

お誘い♪

1. 諏訪湖クラブ平成 22 年度総会と事業計画
2. ニュース ①：新しいエネルギー供給システム
3. ニュース ②：諏訪湖浄化と水産業
4. 寄稿：ダライ・ラマ法王特別講演「善き光に導かれて—今、伝えたい心—」
5. 諏訪湖クラブ第 2 期理事と理事会
6. 理事会報告
7. 自己紹介 宮原裕一氏

## 平成22年度総会に関連しての報告(文責:沖野外輝夫)

すでに資料をお送りしましたように、平成 22 年 5 月 30 日 16 時から平成 22 年度総会がベルビア橋場で開かれました。総会出席者は 29 名（委任状提出 46 名）で合計 75 名、会則に決められた定足数（会員数の 1/5 以上）を満たしていました。総会



には本クラブ顧問の矢崎和広氏、育児休暇中の中島恵理会員、もお忙しい時間を割いてご出席下さいました。ご出席頂いた会員諸氏、ならびに委任出席いただいた会員の方々にお礼を申し上げます。

総会では平成 21 年度の事業報告と会計報告が行われ、次いで平成 22 年度事業計画と予算が審議され、提案通り承認されました。平成 21 年度事業報告と平成 22 年度事業計画についてはお送りした資料をご覧ください。以下に平成 22 年度事業計画の内容と現状を簡単に記載しておきます。

総会終了後、谷 辰夫先生の諏訪東京理科大学退職記念講演会を開催しました。講演題目は「諏訪から提案するエネルギー事業」でした。その後場所を隣室に移して谷先生を囲んでの懇親会を開き、20 時頃に散会しました。

### 1) 平成 22 年度事業計画と現状

#### 1. 平成 22 年度大会及び総会の開催

#### 2. プロジェクト活動

1) 諏訪湖保全研究・事業 「諏訪湖チャリティー・ウォークは 5 月 30 日に、全国一斉水質調査は 6 月 6 日にすでに行われました。また、諏訪湖浄化の新たな展開として「諏訪湖浄化を目的としたスワパール養殖計画」の検討を始めました。諏

訪湖浄化に関係する各主体の方々と協議しながら進める予定で準備しつつありますが、会員の皆様にも情報を提供しながら進めていく予定ですので、興味のある方はご参加をお願いします。現在の検討内容についてはこのニュースに掲載してありますのでご覧ください。

## 2) 新エネルギー活用計画の推進

- ・ 諏訪地域エネルギー協議会への協力
- ・ 地産地消事業への支援
- ・ 環境保全型農業への支援

今年度も諏訪地域エネルギー協議会を中心に活動を進めていく予定でありますので、興味のある方の参加をお願いします。現在の検討内容につきましてはこのニュースの報告「豊田終末処理場オープンスペースの有効利用」をご覧ください。

「環境保全型農業への支援」については農水省と総務省の助成金を申請しましたが、残念ながら今年度は採用になりませんでした。来年度に向けて引き続き申請の準備を進めていく予定です。



## 3) 諏訪圏域まちづくり計画への支援

3. シンクタンク設立準備（継続）
4. 講座、講演会、環境事業の開催と支援
5. ニュース、会報の発行と新規会員の獲得
6. その他クラブの目的に沿う事業

お誘い♪

### 諏訪東京理科大学の出前授業を受けてみませんか？

『太陽光発電システムを使って家庭で使う電気製品を手作りしてみよう！』という企画の手始めとして、太陽光発電システムの仕組みや、関連産業の動向について学べる講義を受けます。エプソンシニアクラブの企画ですが、一緒にいかがですか？というお誘いです。諏訪湖クラブでは、谷理事を中心として、同システムを使った壮大なプロジェクトが動いています。私たち個人でも、太陽光発電システムについて見識を深めるとことから、何か見えてくるかもしれません。

日 時：9月1日～10日までの間の平日  
午前10時～12時  
会 場：諏訪東京理科大 講義室（詳細は未定）  
内 容：午前10時～11時半（90分）講義後、  
11時半～12時まで学内実験設備見学  
参加費：無料  
その他：現地集合、現地解散、希望者は学生食堂にて  
昼食（実費）

※日にちが決定していませんが、8月半ばには決定する予定です。参加ご希望の方はお電話にて、**スマートレイク事務局**（0266-57-5019）までお申し込みください。詳細はお電話にてお知らせします。



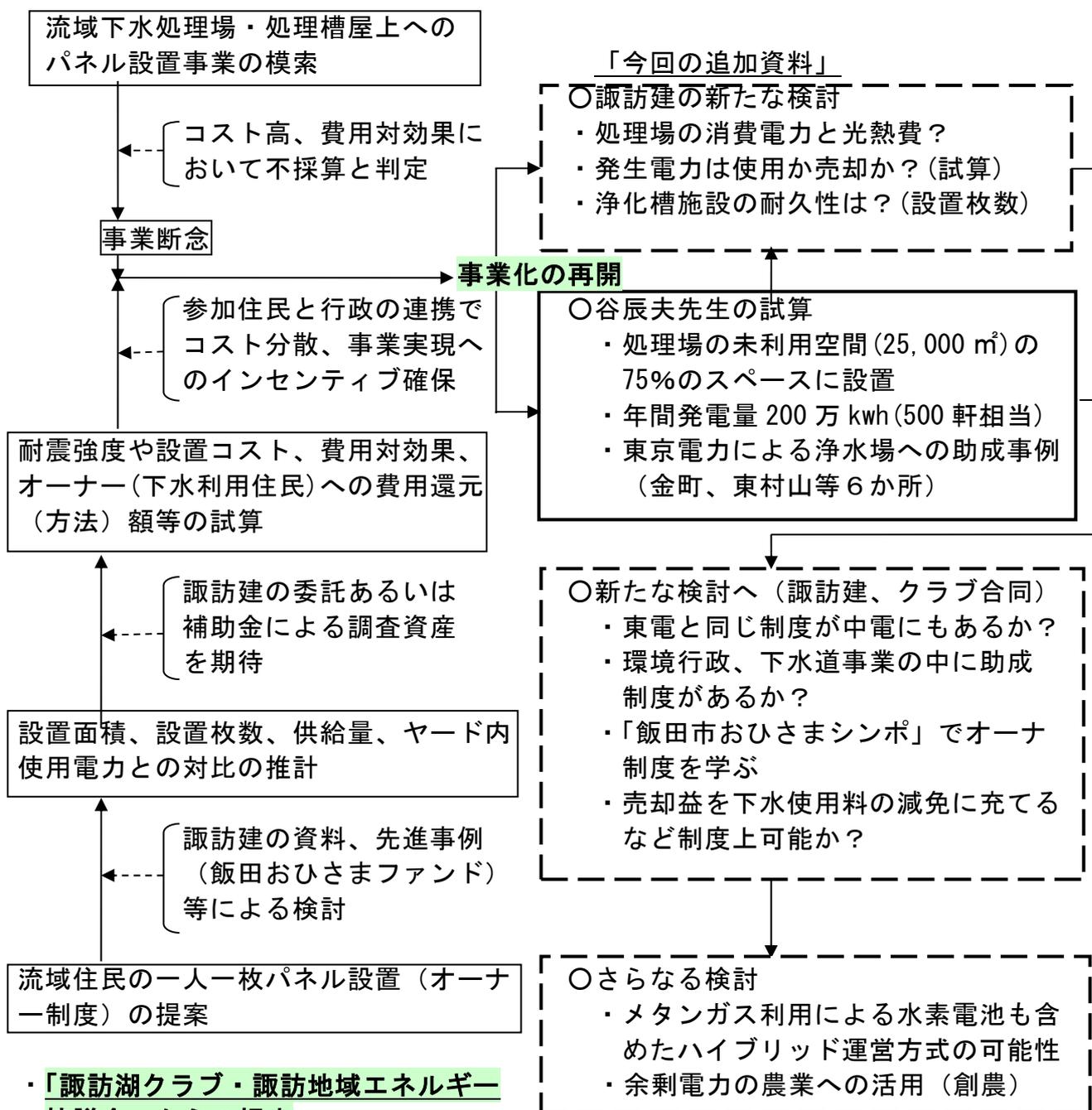
## 新しいエネルギー供給システム再構築への取り組み

北原正義・沖野外輝夫

以下に現在の検討経過を要約して示しました。皆様からのご意見を歓迎します。

- メタンガス・燃料電池コージェネレーションシステム
- 太陽光活用（目的：下水使用料の維持、温暖化防止対策、住民参加型環境対策）

### ・ 諏訪建設事務所の検討経過



・ 「諏訪湖クラブ・諏訪地域エネルギー協議会」からの提案

## ニュース②

# 諏訪湖浄化と水産業、観光業の連携事業 沖野外輝夫

諏訪湖浄化を目的とした「淡水真珠養殖」事業の可能性を検討

1) 目的：漁獲量の減少、外来魚の増加という現状の中で、諏訪湖浄化を目的とする新事業の可能性を探り、各事業体に提案する

2) 淡水真珠を取り上げる理由

1. 淡水真珠の養殖は琵琶湖で始まり、すでに養殖法(筏からの母貝の吊り下げ)が確立している。
2. その技術は中国で生きている。
3. 諏訪湖でも過去に取り組んだが、成功しなかった(養殖環境が悪かった?)。
4. 諏訪湖の現状はイケチョウガイ養殖に適した餌環境となっている。(浮遊珪藻類が春期に多く発生し、透明度減少の原因と成っている)
5. イケチョウガイはフィルター・フィーダー(プランクトンの濾過食者)で、諏訪湖で現在増殖している珪藻類を餌として利用できる可能性がある。諏訪湖での水質浄化実験の結果も長野県水産試験場にある。当時実験に携わった武居薫氏が現在所長として諏訪支所に在籍している。(武居氏は諏訪湖クラブの会員)。
6. 淡水真珠貝養殖の結果として春期透明度の増加が期待でき、湖水表面の生産層が厚くなり、湖底への酸素供給量を増やすことも可能となる。
7. 養殖用の浮きいけすは諏訪湖のコイの網いけす技術を応用でき、シジミの吊り養殖と併用も可能である。

3) 背景、問題点と検討事項

1. 琵琶湖では内湖で養殖し、淡水真珠養殖組合が存在している。長野県水試から問い合わせてもらったところ、情報提供、母貝提供などの協力可能との返事を得ている。
2. 国内では琵琶湖での養殖・販売(びわ真珠)、霞ヶ浦では「霞真珠」として大粒の真珠を生産、販売している。
3. 国内での販売は安い中国産に押されて芳しくないが、最近復調しつつある。(中国産と競争しなくて済む諏訪独自の販売方法を考える)

#### 4. 淡水真珠の特徴

母貝はイケチョウガイが最適だが、カラスガイも真珠を作る（諏訪湖のカラスガイでも確認されている）。自然の物は小粒で、いびつな玉が多く、養殖物も海産真珠には形状で劣る。色は淡紅色が多い。母貝は 3 年で真珠を形成する親貝となり、3 年の畜養期間で真珠が形成される。15 年で 20～30 cm に成長し、寿命は 30 年。真珠の形成は外套膜内で行われ、無核真珠が形成される。琵琶湖では 4 年前に品種改良が成功し、病気に強い母貝が生まれ、「月の涙」ビワパール復活の足がかりとなった。価格は海産に比べて安い。食用にもなる。

#### 5. 当面の課題

\* 前回の失敗原因の解明と既存の情報：（武居氏に情報提供を依頼、湖内での実験には諏訪支所にあるいけす資材が利用可能であること、実験場所としては支所に近い高木沖、



水深 4 m の地点（ヒシ群落の沖側あたり）が適当、研究費としては当面 10 万円程度が必要、その他について電話で話し合った。いけすの設置などから 8 月以降には研究開始も可能である）

\* 基礎研究としての課題

諏訪湖での母貝の成長と餌環境についての研究

諏訪湖での浄化効果の算定（濾過速度から算出）

淡水真珠生産システムと販売システムの構築

\*（7 月 12 日に諏訪漁業組合で藤森組合長と面談した）、信州大学（花里教授、宮原准教授とは話し合いを行い、基礎研究に関しては担当可能な学生（4 年次）が大学院に合格したとの情報を得ている）との共同研究として始めることに了解を受けている。

\* 今後は、関係諸団体（信大、漁協、長野県水試、観光関係、など）との協議会を設置し、それぞれの分野に関係する問題を整理し、実行へ向けて進める予定でいる。



## 寄稿



さる 6 月 20 日に、ダライ・ラマ法王 14 世が善光寺の招待で来日され、長野市のビックハットで特別講演がありました。その内容を当日配布の資料を要約してご報告いたします。

高木保夫

### 「善き光に導かれて—今、伝えたい心—」

**ま**ずいちばん初めに、この会場へお見えの皆様、心からご挨拶申し上げます。

善光寺のお坊様の般若心経はよかった、うれしかった。心経を唱えている方は、仏教の教えを維持している、まったく同じ立場に居ります。

釈尊の教えは、パーリ語とサンスクリット語の二つの伝統があります。般若心経の教えでは、目も鼻もなく、見る領域もありません。皆様の心にどう反映しているでしょうか。膨大な般若経の中にある金剛般若経の中に、「形もない、音もない、目もない」があります。この「ない、ない、ない」は世俗的には存在しても、究極の事象においては、ない、ということです。

二つの真理とは、世俗レベルの真理と究極レベルの真理です。それらのすべてがないというのは、実体をもっていないということです。ルージュ菩薩（インドの導師）は、釈尊の教えは二つにまとめられると言っています。心経の「照見五蘊皆空」は、体の構成要素も空であることを指しています。チベット語の起源であるサンスクリット語では、「五蘊もまた」と述べられています。

漢訳による日本の心経には、「また」が入っていません。「五蘊もまた」は、仏教の中に自我は存在しないことを意味しています。究極に自我はありません。五蘊もまた空、事象を欠いたもの。それでは、自我と

はなにか。どのような存在か。五蘊以外の中に自我はない。私たちの体の構成要素である五蘊以外に自我はない。仏教における無我の教えです。自我は、五蘊に依存して、名義上の存在です。私たちの自分は、単なる名前だけで事象を欠いた空です。

私の心の中で、心経の中に示されている意味について話しましたが、退屈していませんか？ もう少し説明しましょう。

**実**体をもった存在として、誤った執着と怒りがあります。さまざまな煩惱が沸き起こる。怒りの心が起きるのは、相手がひどいことをした時です。私という観念が強くて来る時。心の中に強い怒りが生じる時、相手に対して怒りの心、それは自分、自我です。自我があるという感覚、自我はどこにあるのでしょうか？

脳にあるのか。それはちがいます。では、心臓にあるのか、それも違います。私たちの心、意識にはさまざまなレベルがあります。「私は見た」--それは自我なのでしょう、それもちがいます。いろいろなレベルにおける意識、第六の意識は覚醒している意識です。夢を見ているのは、より微細な意識。夢も見ないのは、さらに微細です。自我=これは自分であると指し示すことはできません。

対象物は一切見つからない。無我=あらゆる破壊的感情、煩惱。まぼろしにすぎ

ない自我、こころを捉われの心。ふだん、自我が実体を持っていると間違っ て捉えている。この間違いを滅するのが無我の教えです。我執を滅らしていき、捉われをなくしていき。無知の心を晴らすために。

自我＝我執には、これが正しいとする理由は存在していません。私たちのその本質は、光り輝く汚れないものと釈尊は説いています。私たちは、間違っていました。苦しみをその因とともに滅した境地。本当に存在するのは、滅体の境地です。「命あるものに慈悲の心がうまれてくる」――これが心経のエッセンスです。



**善** き光＝Clear Light 法名の心。私たちの心をよりよく変えていく可能性です。皆さんが望んでいるより幸せな人生です。お金も教育も必要です。人間である限りは、倫理に基いた生き方をする。社会生活を他の人とともに営むことです。

よき友情は、信頼関係の上に成り立っています。本物の友情、人間関係は非常に大切です。例えばこの腕時計、これを気に入っていますが、時計は私たちに愛情を与えてくれることはできません。しかし犬や猫に愛情をそそげば返って来ます。私たちの人生は、愛情によって支えられています。この会場の何千人すべての方々、お母さ

んから最大限の愛情をもらってきました。愛情をもらった人は幸せです。やさしさや思いやりは大変重要なカギです。深い部分に愛情が必要なことは間違いありません。

**慈** つには「自分自身に自信を持つ人間になること」です。ふたつに「他者のしあわせを願うこと」です。透明感にあふれた真実の行ないとなることです。私たちの脳は、知性を持っています。知性が備わっていると、深い認識をもつことができます。自分自身の心が平穏であることが前提です。心がかき乱された状態では、無理です。心穏やかな平和な心でなければ正しい判断はできません。現実的で正しいアプローチをするためには、調査が偏らないように、客観的な心でみること。そのためには、心の平穏さを維持することが大切です。

私たちがより平和な心を持っている時、肉体も健康でいられます。自分の健康を維持するためにチベット医学の薬を毎日飲んでいきます。あまり心配事が多いと血圧が上がってしまいます(笑)。若い人のうつ病や自殺がなぜ多いのでしょうか。心のやすらかさが無いから起きてしまうのでしょうか。仏教の三つの顔、それは科学の側面、哲学の側面、宗教の側面です。

心を安らかに保つことがいかに大切か私たちの感情の動きを知ることです。宗教的でないユニバーサルなもの。幸せな人生を求めている心の内面を、よく保つことです。心の本質はニュートラルであり、どのような方向へも向くことができます。かき乱された悪い感情を捨て、よりよき感情を高めていきましょう。



## 諏訪湖クラブ第 2 期（任期：平成 22 年 4 月 1 日～24 年 3 月 31 日）役員

会 長：沖野外輝夫 副 会 長：小林聖仁、小松道俊、金子田美（新） 専務理事：長崎政直  
 理 事：高木保夫（庶務担当）、小口武男（会計担当）、市川純章（新）、鴨志田明子、北原正義（新）、小池大羊、  
 谷 辰夫、花里孝幸、宮坂平馬、宮原裕一（新）  
 監 事：鮎澤光昭（新）、上島義和（新） 顧 問：森本尚武、矢崎和宏、宮坂久臣

## 定例理事会について

開 催 日：原則として各月の第 3 日曜日、午前 10 時～12 時

開催場所：スマートレイク事務所（TEL：0266-57-5019）

\* 定例理事会は毎回拡大理事会として開催していますので、会員どなたでもご出席可能です。自由にご参加、ご発言下さい。事前のご出席通知は必ずしも必要ではありませんが、必要があれば沖野（TEL：0266-58-0490 または E-mail：[okinow@po2.lcv.ne.jp](mailto:okinow@po2.lcv.ne.jp)）へお願いします。

理事  
会  
報  
告

- 第 27 回 日 時：H22 6 月 20 日（日） 午前 10 時～12 時  
 出席者：沖野、金子、長崎、上島、宮坂、北原、鴨志田、宮原、市川  
 内 容：  
 1. 平成 22 年度総会、講演会の報告、総括  
 2. 平成 22 年度事業計画について  
 3. ニュースの発行について  
 4. その他
- 第 28 回 日 時：H22 7 月 18 日（日） 午前 10 時～12 時  
 出席者：沖野、金子、長崎、北原、田代、鴨志田、宮坂、高木  
 内 容：  
 1. ふれあいまつり 2010 について  
 2. 新しいエネルギー供給システム再構築への取り組み  
 3. 諏訪湖浄化対策としての淡水真珠養殖研究計画について  
 4. その他

中学校の部活動で千曲川の水質調査を行っていました。自分の技術で水質データが得られるのが嬉しく、河川水・井戸水など手当たりしだい、仲間と採取に行き、分析したことは今でも忘れられません。また、大学では生物研究部に所属し、プランクトンネットとパックテストを持って都内の公園めぐりなどしておりましたが、その縁もあり大学院では水質（し尿汚染）の研究に携わることができました。その後、有害化学物質の健康影響に関する研究をしていましたが、中学生のときに体験したフィールドワークの楽しさが忘れられず、2001 年より諏訪湖に研究の場を移し、再び水質研究に関わっております。また、諏訪湖クラブに加えていただく前から、5 月にはチャリティーウォークで諏訪湖を歩き、6 月には諏訪湖流入河川で全国一斉水質調査を行い、9 月にはふれあいまつりに諏訪湖の水を運ぶのが、ここ数年の恒例行事となっております。30 年余り経った現在も、時間とともに刻々と変化する水質、あるいは場所によって大きく異なる水質を調べ続けているのも、常に新しい発見があるからです。自分の仮説が的中したときのワクワク感を、是非、若い学生たちにも感じて欲しいと試行錯誤している毎日です。

## 自己紹介：宮原裕一



企画・編集・発行 諏訪湖クラブ事務局

〒392-0017 諏訪市城南二丁目 2362

TEL/FAX 0266-58-0490 E-mail [e-suwa-info@lake.gr.jp](mailto:e-suwa-info@lake.gr.jp)

諏訪湖クラブニュース

No. 8